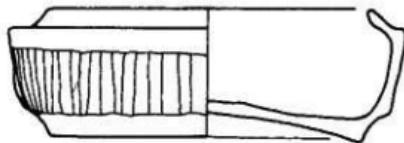


四條畷市埋蔵文化財包藏地調査概報6

中野遺跡発掘調査概要・I

——四條畷市大字中野所在——

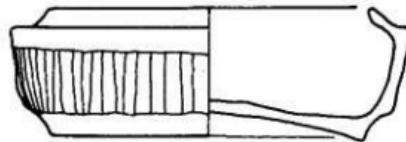


1978・5

四條畷市教育委員会

中野遺跡発掘調査概要・I

——四條畷市大字中野所在——



1978・5

四條畷市教育委員会

本文目次

例　　言		
第 1 章	調査に至る経過.....	1
第 2 章	遺跡の位置と環境.....	1
第 3 章	遺　構.....	5
第 4 章	出　土　遺　物.....	9
第 5 章	ま　と　め.....	17

挿入目次

第 1 図	中野遺跡周辺地形遺跡分布図.....	2
第 2 図	中野遺跡遺構図.....	3
第 3 図	掘立柱建物址断面実測図.....	6
第 4 図	II区Q-132地点検出井戸実測図	8
第 5 図	II区T-129地点検出井戸実測図	9
第 6 図	土師質土器・瓦器・須恵器実測図	6
第 7 図	砥石実測図.....	12
第 8 図	須恵器・羽釜等実測図.....	13
第 9 図	須恵器・木製品実測図.....	15
第10図	滑石製石製品実測図.....	16
第11図	石臼拓影.....	16

例　　言

1. 本書は、昭和52年10月～昭和53年5月に四條畷市教育委員会が国道163号線拡幅工事に先立ち、建設省近畿地方建設局大阪国道工事々務所より委託を受けて実施した四條畷市中野681番地他に所在する中野遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査に要した費用（総額2,650,000円）は全額大阪国道工事々務所の負担によるものである。
3. 発掘調査については、教育委員会社会教育課技師 野島 稔を担当者とし、補助員として、藤原忠雄・花田照也・森本澄一・立岡伸也・田中栄一があたった。
出土遺物の整理・実測などについては、野島 稔・森本澄一・永井裕子・阪本富美子・木本倫江・川本三智子・平山純子・片岡純子があった。
4. 本書の執筆・写真撮影は野島 稔が行なった。
5. 発掘調査の進行・報告書作成などについては、大阪経済法科大学 濑川芳則・大阪府教育委員会 田代克己・堀江門也・枚方市文化財研究調査会 宇治田和生・三宅俊隆・片岡 繸の各氏に指導助言を得た。ここに記して感謝の意を表する。
6. 発掘調査の進行については、大阪国道工事々務所 吉居英夫工務課長・巽義則工務課長（昭和53年4月1日～）、大鉄工業株式会社土木建設部の方々の全面的な協力を得た。

中野遺跡発掘調査概要・I

第1章 調査に至る経過

中野遺跡発掘は、国道163号線拡張工事に伴なう埋蔵文化財発掘調査で昭和52年10月から昭和53年5月までの2年度にわたって実施したものである。途中で一時中止の期間も含まれている。

なお、本遺跡は昭和52年度に大阪瓦斯天然ガス管理設工事に伴なう埋蔵文化財発掘調査において、古墳時代中期の大溝・鎌倉時代～室町時代の石組井戸・溝状造構等が検出され、造構内から多量の土器や木器が発見されその調査によって「中野遺跡」と命名するに至った。

本遺跡の北約150mの台地において、かつて片町線複線化に伴なう調査を行われた際古墳時代中期の井戸状造構、落ち込み状造構、掘立柱建物跡が検出されており、加えて東方約400mには奈良時代前期に創建された正法寺跡が存在し極めて占地良好な本遺跡においては、古墳時代・平安時代～室町時代にかけての造構・遺物が存在することは当然のことであった。

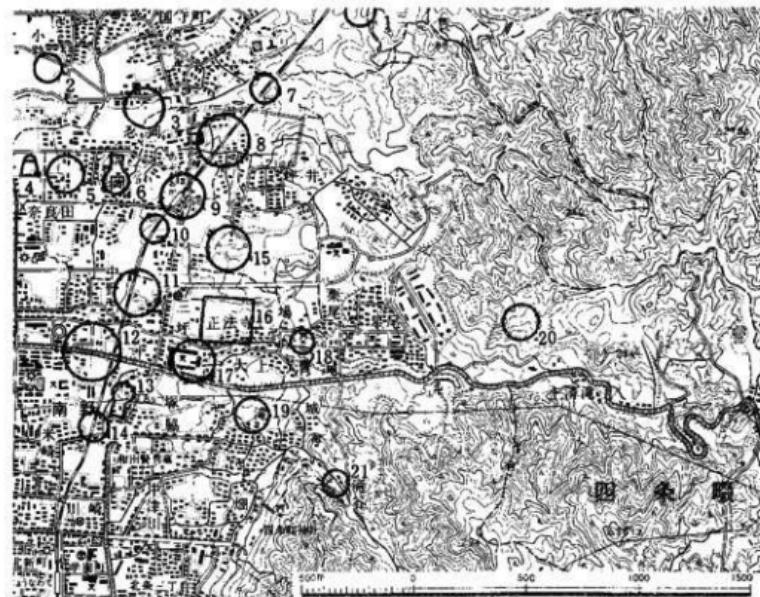
第1次調査は、昭和52年10月より断続的に行ない、その結果古墳時代の掘立柱建物跡、鎌倉時代末期の石組井戸が確認された。遺物については、国産品陶磁器はもとより、中国製陶磁器も出土している。昭和53年2月から第2次調査を開始することになった。その結果平安時代の旧河川、掘立柱跡、鎌倉時代末期の溝状造構・室町時代の石組井戸が確認された。遺物については各造構から各時代の土器をはじめとして、古墳時代の勾玉・臼玉・双孔円板等の石製品が平安・室町時代の造構内より出土している。石組井戸内より花崗岩の挽き臼上下一対が出上している。

第2章 遺跡の位置と環境

中野遺跡は、大阪府四條畷市中野681番地他に所在する古墳時代中期、平安時代～室町時代にかけての複合遺跡である。

大阪と奈良を結ぶ主要道路国道163号線と国鉄片町線が交叉する地点を中心に東西約300m南北約150mの広範囲に広がる集落跡と考えられる。

花崗岩をその主体とする生駒山系は飯盛山付近で北北東に向きをかえて、交野市・枚方市



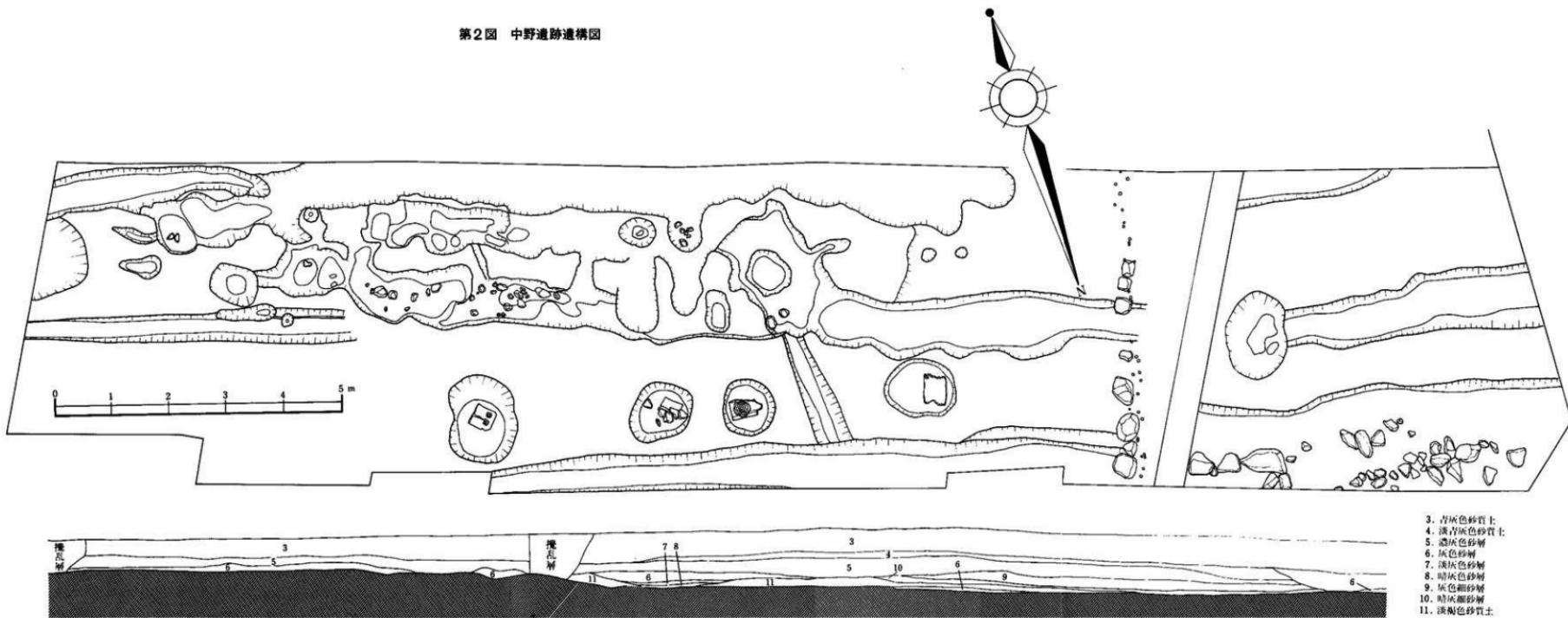
第1図 中野遺跡周辺地形遺跡分布図

- | | | |
|---------------|------------|---------------|
| 1. 打上遺跡 | 8. 坪井遺跡 | 15. 岡山南遺跡 |
| 2. 小路遺跡 | 9. 忍ヶ丘駅前遺跡 | 16. 正法寺跡 |
| 3. 謙良川遺跡・謙良寺跡 | 10. 南山下遺跡 | 17. 四條畷小学校内遺跡 |
| 4. 四條畷銅鐸出土地 | 11. 奈良井遺跡 | 18. 國中遺跡 |
| 5. 北口遺跡 | 12. 中野遺跡 | 19. 木間遺跡 |
| 6. 忍ヶ岡古墳 | 13. 墓の堂古墳 | 20. 千豈敷遺跡 |
| 7. 国守遺跡 | 14. 南野遺跡 | 21. 龍尾寺跡 |

方面へとのびているが、その西側急傾斜面からは洪積層の丘陵が派生しており、東の山々から流れる水は謙良川、清瀧川、権現川となり、いずれもこの丘陵を横切りつつ東西に谷地形を形成している。なお、これらの谷によって形成された丘陵は、北から忍ヶ岡丘陵・清瀧丘陵・南野丘陵に分けることができる。

遺跡周辺の歴史的環境をのべてみると、旧石器時代及び縄文時代の遺跡は、忍ヶ岡丘陵と清瀧丘陵の低位段丘に後期旧石器時代の有舌尖頭器、縄文時代前期～後期の上器や石器が出土した南山下遺跡が所在する。又、本市と寝屋川市との境を流れる謙良川には、ハンドア

第2図 中野遺跡遺構図



ツクス・チョッピングツール・ナイフ型石器等の旧石器時代と縄文時代後期・晩期の主体をなす讃良川遺跡がある。

弥生時代の遺跡は、かつて四條畷市水道局建設工事の折に敷地の東端から弥生時代中期の木の葉文の底部1点が採集されている。

古墳時代になると、忍ヶ岡丘陵の先端の標高約36mに全長約87mの古墳時代前期前半に築造された忍ヶ岡古墳がある。又、中野遺跡の東南に全長100mを越えると思われる古墳時代中期の墓の堂古墳があり、集落跡として忍ヶ丘駅より東方約100mに古墳時代中期の大溝が検出され、遺構内から切妻造家形埴輪・円筒埴輪・動物埴輪とともに多量の土器・木器が出土した岡山南遺跡や5世紀後半の須恵器が伴出する奈良井遺跡・南山下遺跡がある。

歴史時代には、奈良時代前期に創建された正法寺跡・鎌倉時代以降では、木簡・下駄・佔・穂ノ子等の木製品が多量に出土した坪井遺跡、土師質皿や終末期の瓦器碗を伴出する忍ヶ丘駅前遺跡等がある。

第3章 遺構

今回の事前発掘調査によって検出された遺構を大別すると、1.掘立柱建物址、2.大溝、3.溝状遺構、4.井戸の4項目に分類できる。1.掘立柱建物址と2.大溝は平安時代に比定されるもので本遺跡の検出された遺構中では最も古い時期の遺構である。3.溝状遺構、4.井戸は中世すなわち鎌倉時代～室町時代の遺構である。

各遺構からその時期を示す遺物が出土しているが、本章では遺構だけを詳述することにし、遺物については遺構に伴なうもの、伴なわないものについても第4章でとり上げることとする。

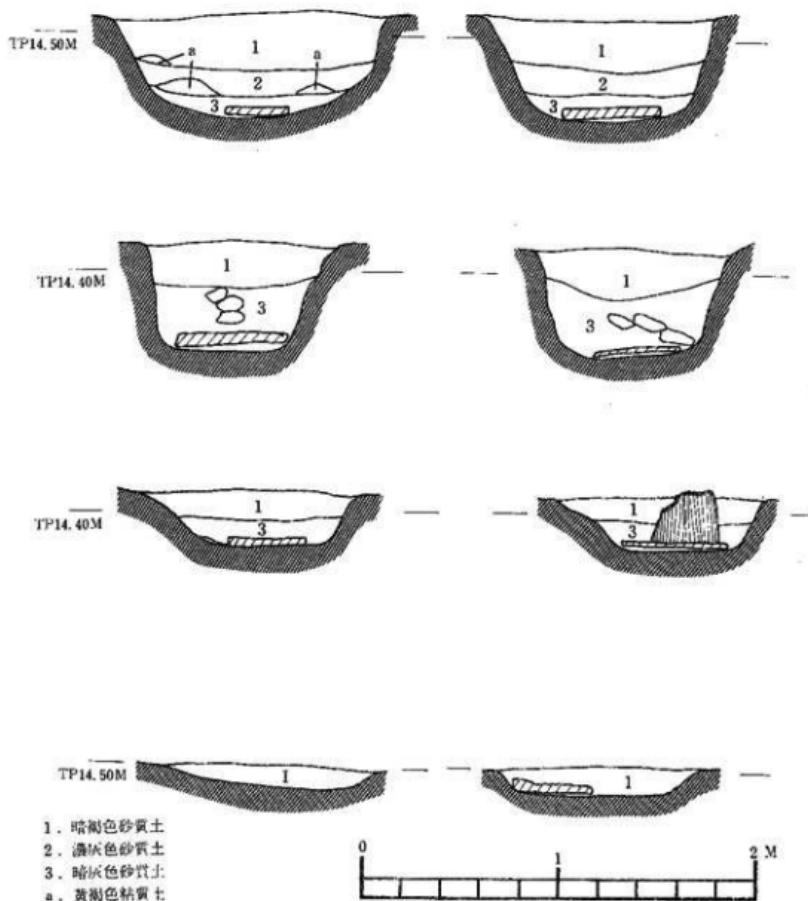
1. 掘立柱建物址

II区W-128地点の中央に検出した東西3間（約7.6m）の掘立柱建物址である。東西柱間寸法は、建物東柱から320cm、120cm、320cmの間隔を置き同一線上に位置している。

柱穴掘り方は一辺100～150cm前後の隅丸方形を基本とし、深さ15～50cmを測る。掘り方埋土は暗褐色砂質土と暗灰色砂質土を主体としている。

建物東柱の掘り方は、一辺150cm、深さ50cmと最大の掘り方で柱痕址の底部には長辺38cm×短辺36cm厚さ7cmの扁平な根板が置かれていた。この根板には8cm四方の角孔が2ヶ所あり2次使用のものであろう。東から2本目の柱痕址の掘り方は、一辺100cm、深さ50cmを測る。柱痕址の底部には長辺32cm×短辺16cm厚さ3cmの根板2枚と20cm前後の花崗岩の栗石5個も

同時に置かれていた。東から3本目の柱底址の掘り方は、一边96cm、深さ30cmを測る。柱底地の底部には長辺58cm×短辺32cm厚さ3cmの扁平の根板が水平に置かれており、根板の上には直径30cmの柱が残存していた。最後に建物西柱の掘り方は、一边124cm、深さ15cmを測る。柱底地の底部には長辺50cm×短辺38cm、厚さ5cmの扁平な根板が置かれていた。すなわち、



第3図 掘立柱建物址断面実測図

すべての柱痕址には根板もしくは集石が置かれている。この掘立柱建物址の南北の間数は調査範囲外のため不明である。

柱痕址内からの出土遺物は須恵器、土師器が出土した。須恵器は壺の器形が認められたがほとんどが小破片で復元不可能であった。

2. 大溝

大溝は調査範囲内の中央を東西に検出された。大溝の規模は全長40m、最大巾12m、底部最大巾10m、深さは最も深い部分で36cmを測る。溝右肩は巾1m前後の緩斜面に続く、断面はU字形を呈しており、レベルは東から西へ約40cm低くなっている。明らかに東から西への主流である。また大溝内に付属する造構としては、直線部の内側に平行して径1~1.5mの比較的大きな長楕円~円形の浅い落ち込みが間隔をおき検出された。さらに直線部の外側には、大溝に平行して掘られた巾50cm、深さ8cmの1本の浅い溝が確認された。この大溝及び平行溝からの出土遺物の比較からみて時期差は全く認められない。すなわち同一時期に大溝は計画性のある段、排水溝等の役目をしていたものと考えられる。

3. 溝状遺構

確認された最上層の遺構である。残存巾70cm、深さ25cmを測る溝で西流している。溝内褐色砂質土中からは、完形の瓦器壺、瓦器皿、土師大皿、土師小皿が多量に出土している。

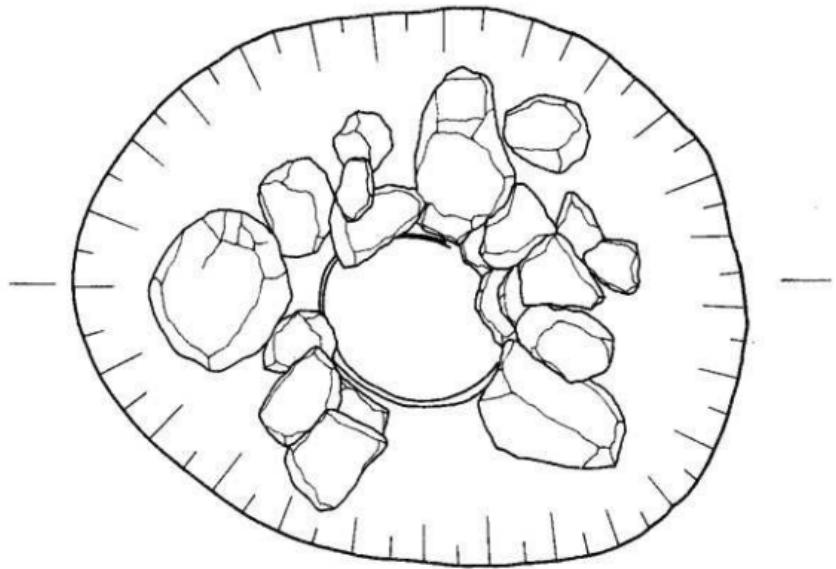
4. 井戸

中世から近世にかけての遺構で顕著なものは井戸であった。中野遺跡全体で検出されている中世の井戸は4基であった。井戸の種類には、曲物だけで井戸枠を積み上げたもの1基、石積みと曲物をあわせたもの2基、石積みだけのもの1基であった。今回の調査で検出された井戸は石積みと曲物をあわせたもの1基、石積み井戸1基であった。

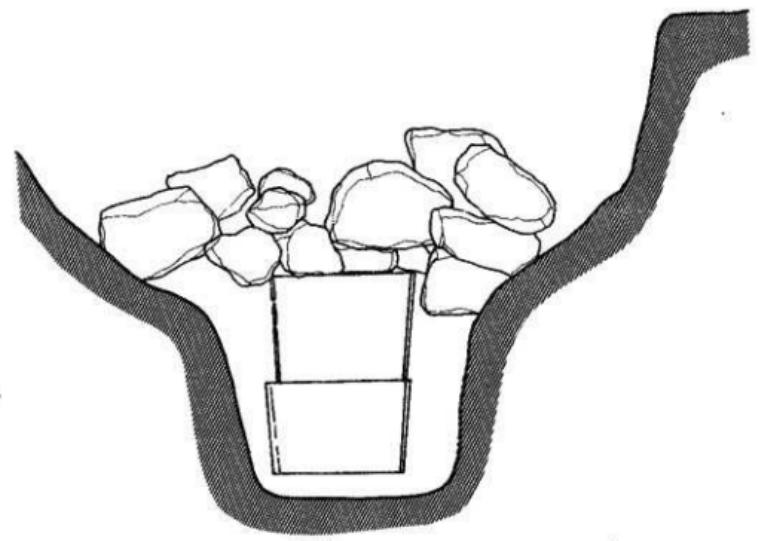
井戸の形状はほとんどが円筒状で、ただこの円が正円のものといくらか楕円形のものがある。これらの井戸は当時の庶民が使用していたものであるが、個人所有であったのか共同使用であったのかは周辺の住居地の配置が把握できないため不明である。

II区Q-132地点検出の井戸は、上段円形石組十下段曲物で内法直径45cm、上面の高さT・P 13.18m、底の高さT・P 12.12m、深さ1.06mである。わりあい大きな花崗岩を3段に積み上げ、下段にはヒノキ材の曲物を2段に積み上げられている。この井戸が本遺跡では最も古く、築造の時期は鎌倉時代と考えられる。井戸の底から完形の瓦器皿とほぼ完形に近い影徳鎮系統の窯の産と思われる合子が出土している。

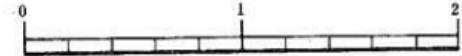
II区T-129地点検出の井戸は、わりあい大きな花崗岩（直径15~30cm）の石積みで花崗岩や河原石を裏ごめにしたもので掘り方の大きさも大きく、豪壮な感じのする井戸である。井戸の規模は、内法直径80cm、上面の高さT・P 14m、底の高さT・P 11.90m、深さ2.1mで



TP13.00M



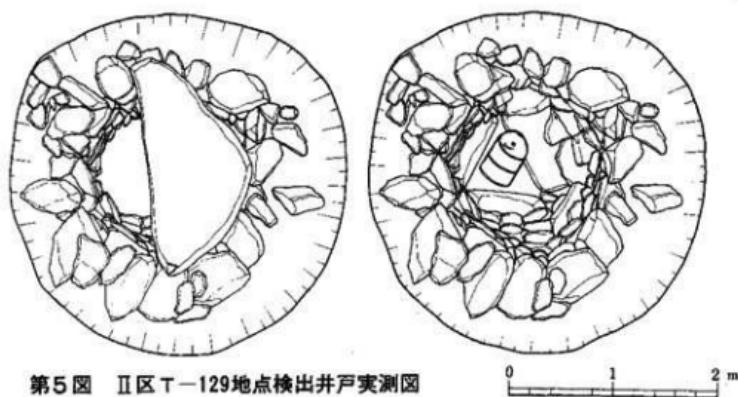
第4図
II区 Q-132地点検出井戸実測図



ある。井戸の底には3個の花崗岩を三角形にレベルを合わせた施設が認められている。井戸内から土師質小皿片・瓦器片・瓦片・曲物底板・挽き臼上下臼一対が完全な状況で出土した。

井戸内西側上面に長辺1.0m、短辺0.5mの三角形を量する大きな花崗岩を置いており、又、井戸内からも東側上面に置いたと思われる大きな石が井戸内に落ち込んだ状態で発見され、井戸癪棄の状況が明らかであった。

これらの出土遺物からみて築造の時期を鎌倉時代末頃、癪棄の時期は室町時代であろう。この井戸が中野遺跡での最も新しい時期である。



第5図 II区T-129地点検出井戸実測図

第4章 遺 物

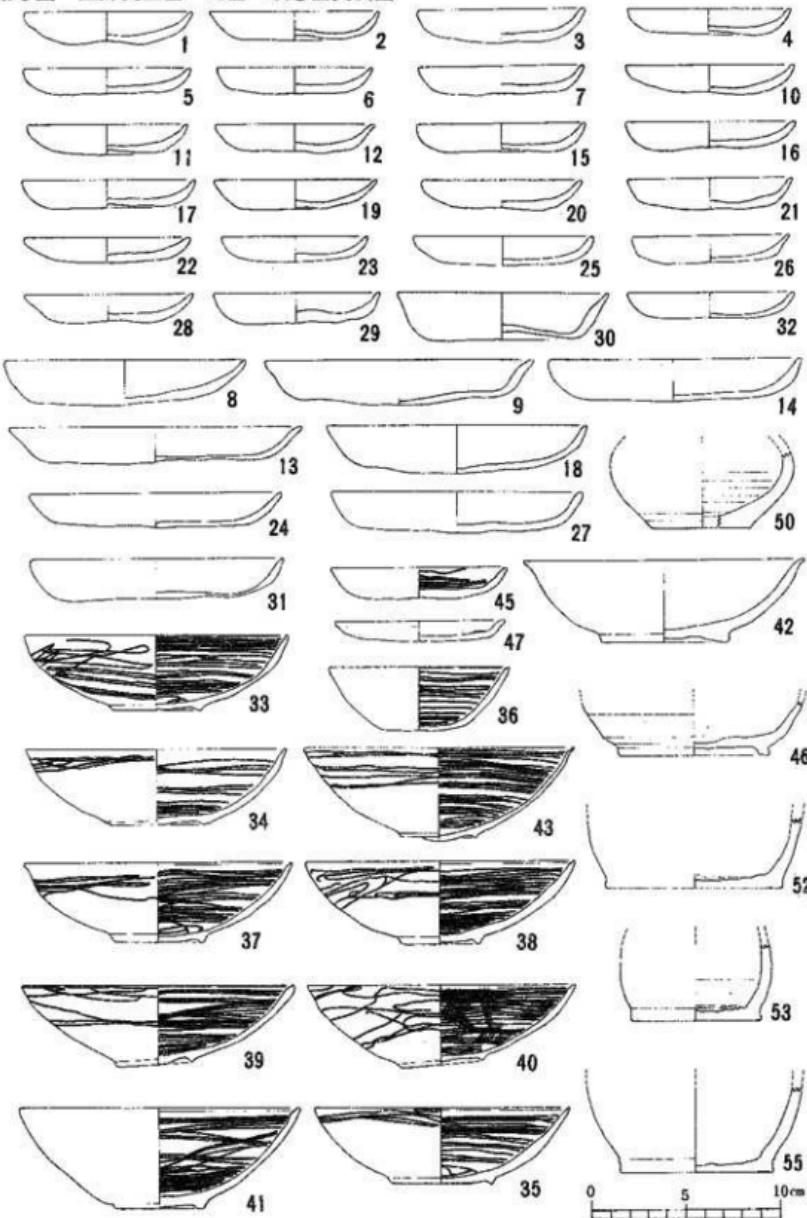
今回の調査地からかなりの量の遺物が出土しているが、遺物の伴なう遺構は人溝、落ち込み状遺構及び井戸のみである。それらの遺物と遺構面及びその直上の土層からの出土遺物とは形式的に差は認められなかったので一括して記述しておきたい。

出土遺物の種類は土師質皿・瓦器碗・瓦質羽釜・須恵器の壺・鉢・甕・高壺・壺身・壺蓋・陶磁器等の土器類・石鍋・砾石・勾玉・臼臼・双孔円板等の石製品・曲物底板の木製品類が出土している。

土師質上器（第6図の1～32）

II区W-128溝状遺構から出土した土師質土器は、やや薄手で底は平につくられ、胎土にかなりの砂粒を含むものと、やや厚手で砂粒を殆んど含まず底が丸く盛りあがっているものも

第6図 土師質土器・瓦器・須恵器実測図



ある。口縁部外側の下部に指紋の残るものがあることから手づくねである。内面及び口縁部外面はヘラによるナデ調整が施されており、形が正円を呈することから回転ナデ調整である。大きさは一定せず小さいもので直径8cm前後、高さ1.3cm前後、大きいもので直径14cm前後、高さ2.5cm前後の二種類が認められる。

瓦器碗（第6図の33~41・43）

瓦器碗は口縁端部は外反し、内面に1条の沈線と外面に約1cmの幅でナデ調整が施され、高台は三角形に貼り付けられているもので高台としての機能を果さないもの（43）は全く高台は付かず丸底のものもある。すべての内面は丁寧なナデ調整の上に13~22条の暗文が施されている。

縁釉陶器（第6図の42）

器形は柄で安定した高台が付けられており器壁は非常に厚く焼成良好である。釉は内外面に施されている。

瓦器皿（第6図-45・47）

瓦器皿は底部と体部の境が不明瞭な皿で体部は内弯ぎみにたちあがるもの（45）、体部は外弯ぎみのたちあがるもの（47）とがあり、口縁部は丸くとじ体部内外面にナデ調整が施され内面にジグザグ格子の暗文が施されている。

ねり鉢（第8図-59）

このねり鉢は須恵質であり、口縁部は片仮名の「ク」の字形をしている。

滑石製石鍋（第8図-66、第9図-71）

（66）は石材は滑石で色調は灰色を帯びている。大きさは口径30cm、残高5.5cmで平滑に鋭利刃器で剝離調整したものであるが、表裏の剝離調整は著しく相違している。表面は剝離調整があらく凹所を存し、裏面は剝離調整が非常に細かくその上整形も良好である。口縁部直下に鉄状の突帯が創出されていたと思われるが鋭利刃器で剝離されている。鉄状突帯下に0.8cmの円孔が穿かれている。

（71）は石材は滑石で色調は緑色を帯びている。口径33cm、残高4.5cmで口縁部直下に鉄状突帯が創出されている。表裏の剝離調整は良好である。

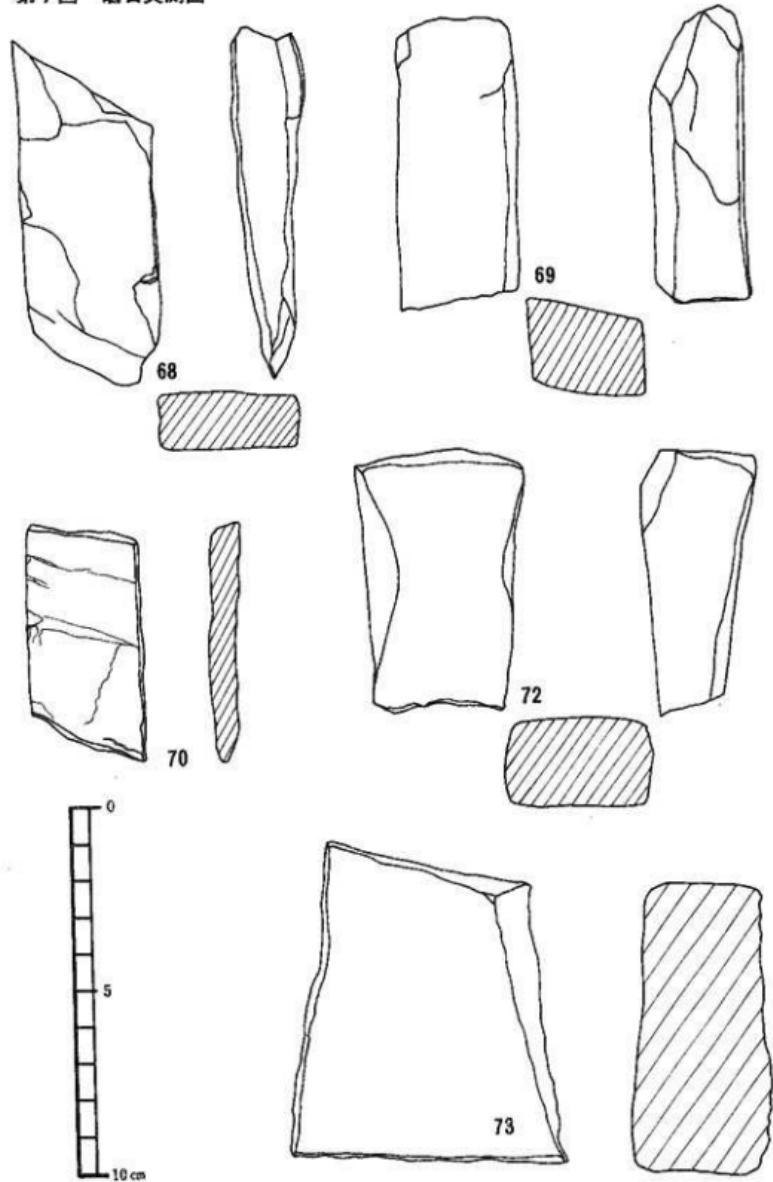
砥石（第7図-68・69・70・72・73）

5個の砥石が出土しているがいずれも大溝内より出土しているもので荒砥と仕上げ砥で石材は砂岩と粘板岩である。

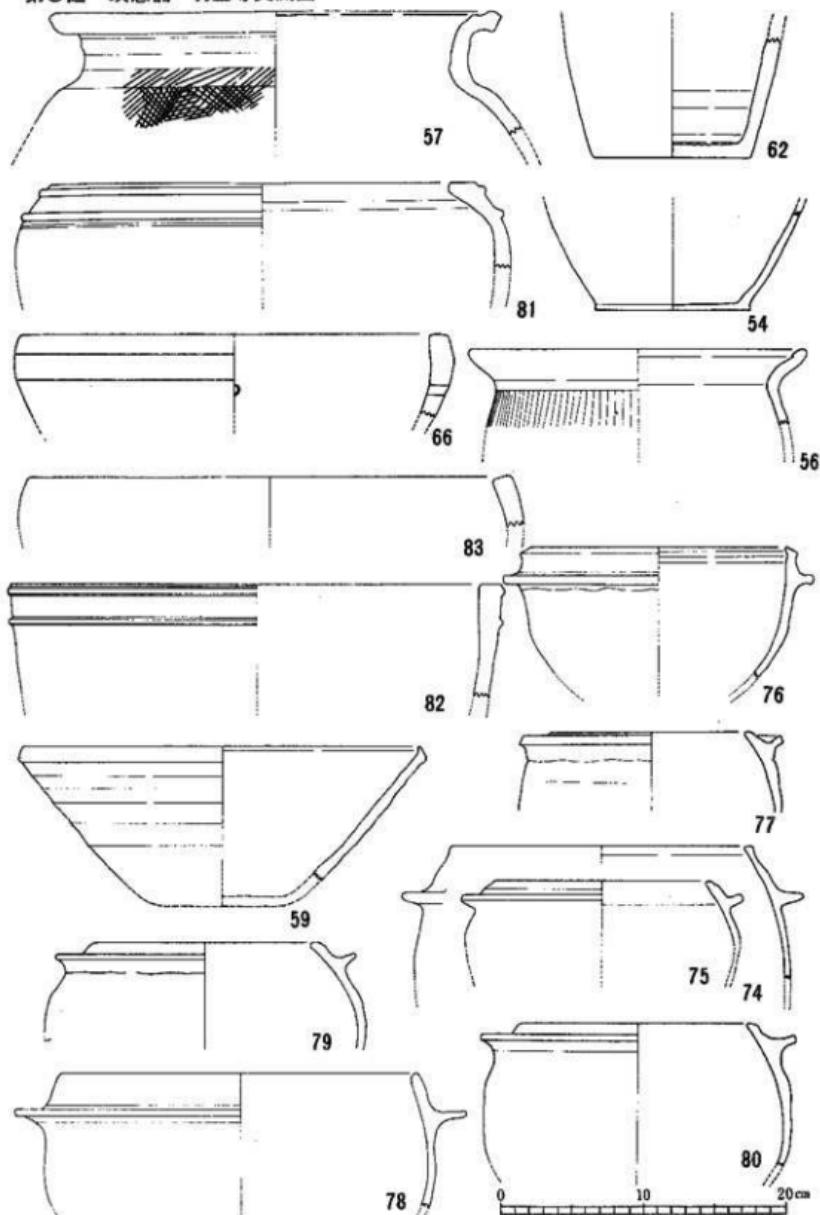
羽釜（第8図-74~80）

羽釜には二段になって内弯する口縁部をもつもの（75・76）と少し内弯している口縁部に端平水平になっているもの（74・80）内弯する口縁部が出土している。図示したものは径15

第7図 砥石実測図



第8図 須恵器・羽釜等実測図



～25cmで復原すると器高11cm前後で口縁部より1.0～3.5cmのところから斜め上に羽がのびている。殆んどススの付着は認められない。

香炉（第8図-81～83）

断面半円形の2本の凸線があり、その間に1.5cm×1.5cmの単位文がある。

曲物底板（第9図-84～85）

II区T-129地点石組井戸内灰黒色シルト層から出土したもので直径18.7cm、厚さ1.0cmと直径7.1cm、厚さ0.4cmの円板形をなす柾目（ひのきめ）の木製円板で桶又は曲物の底板と思われるが井戸内からは曲物は発見されていない。（85）には径0.2～0.3cmの孔が垂直に穿たれている。

合子（第9図-86）

II区Q-132地点石組井戸内から出土したもので口径5.7cm、器高2.3cm。内外面に青緑色の釉がかかり胎土は白色の精良なものである。色調及び焼成からみて影徳鎮系統の窯の産である。

須恵器

圧倒的に多いのが糸切り底の須恵器である。器種は椀・鉢・高环・壺・甕・坏身・坏蓋など数点が図示できた。第9図-87・89-91は坏身である。口径10～13cm、受部径12～16cm、器高4～5.5cmで立ち上がりは内傾している。受部は外上方に突出し端部は純い稜をもつ。外面の刃を時計回りにヘラ削りし内面は回転ナデによって仕上げる。（61）は高环脚部で八の字形にひらく裾部をもつ。脚端部は上下に把握する。

勾玉（第10図-92・97）

勾玉は地山直上に2個検出している。（92）は硬玉製で灰青色に部分的に白斑をもつがよく研磨されて光沢を放ち滑らかなつくりである。やや尾部の大きいC字形で均整のとれた形をしている。円孔は逆C字形に置いた一方からなされている。器高2.2cm、幅0.7cm、頭部厚0.7cm、尾部厚0.65cm、円孔上方径0.3cm、下径0.15cmを測る。（97）は滑石製で暗灰色を帯びている。頭部から胴部にかけての側面に平滑面をもち、弱い稜を有するが円孔は両方からなされている。器高5.9cm、頭部厚1.9cm、尾部厚2.0cm、円孔径1.0cmを測る。この滑石製品は勾玉の未完成品である。

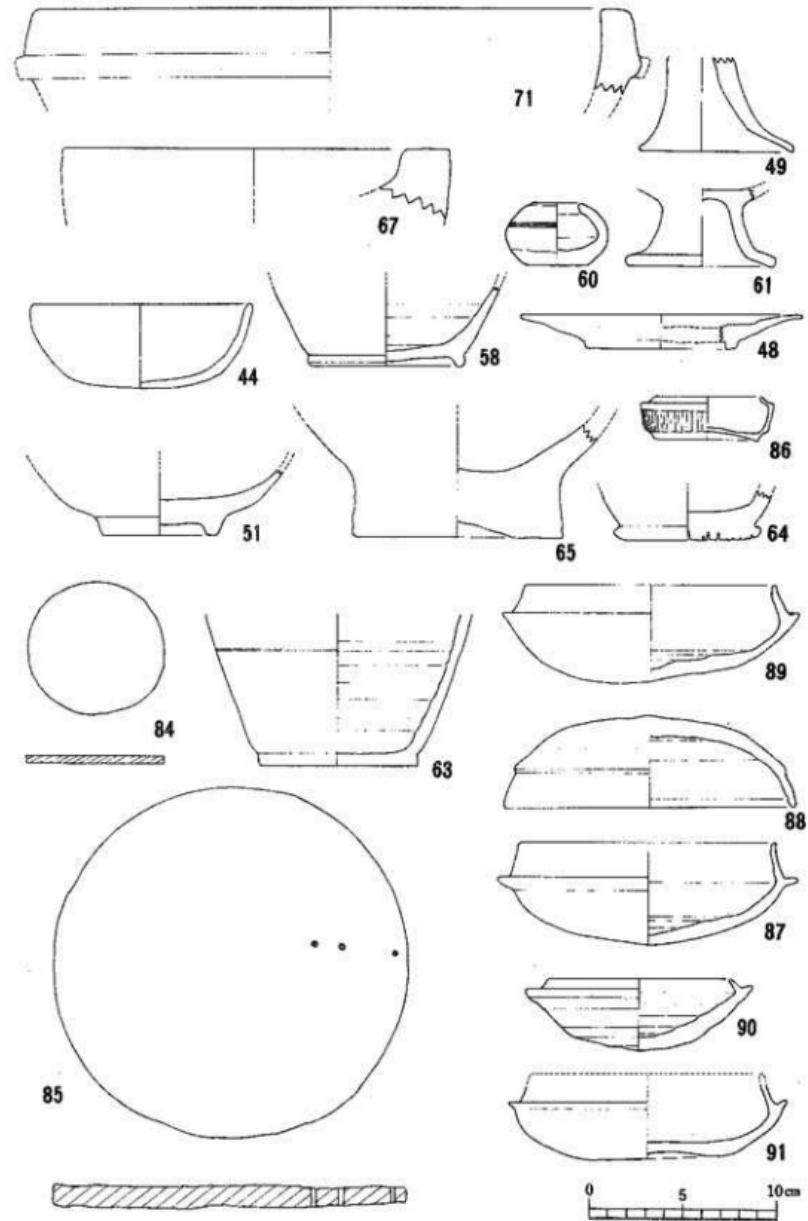
白玉（第10図-94～95）

白玉は滑石製で暗灰色を帯びている。径0.25cm、幅0.4cm、孔径0.2cmと径0.25cm、幅0.4cm、孔径0.15cmで上下から側面を削り中央で稜をつくように整形している。

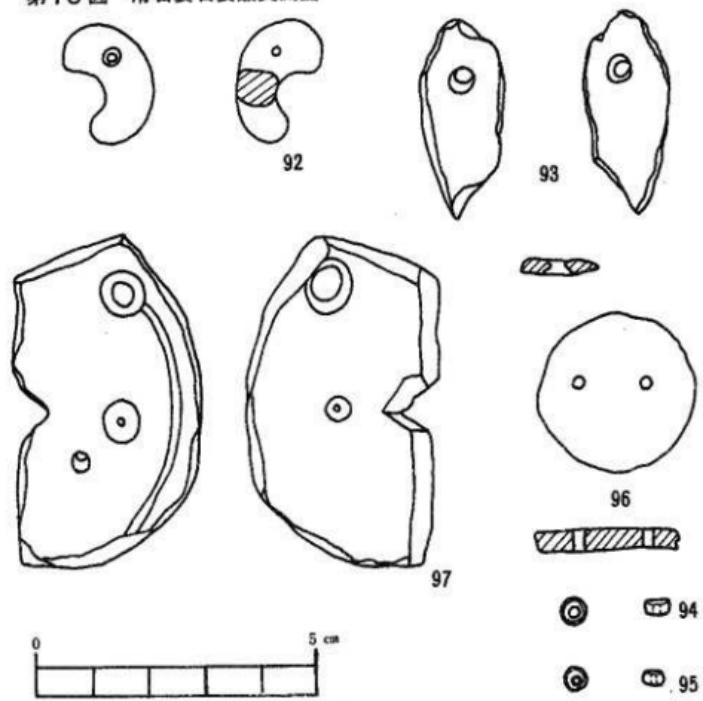
双孔円板（第10図-96）

千枚岩で長径2.8cm、短径2.7cm、厚さ0.4cm、で表裏両面及び断面の擦痕のある仕上げの荒い粗製品である。長軸にそって径0.18cmの孔が2ヶ所穿たれている。

第9図 須恵器・木製品実測図



第10図 滑石製品実測図



第11図 石臼拓影



石臼（第11図）

II区T-129地点石組井戸から挽き臼一对が完全な状態で出土した。石材は花崗岩で整然とした八分画五溝式で回転方向は左まわし（反時計回）である。上臼は径28.5cmくぼみ内径21.5cm、高さ10cm、供給径4.0cm、両側方打込み挽手がある。下臼は径28.0cm、高さ9.0cmで芯棒孔径5.0cmで鉄芯棒及び支持木も同時に出土している。

第5章 まとめ

本遺跡から検出した遺構・遺物については各章で記述した。これらは古墳時代中期から室町時代までのきわめて巾広い時代に亘り生活の跡が多数現存している。国道用地内を発掘調査した段階でも周辺の遺跡と有機的な関係をもつであろう遺跡・遺物が多量に検出された。

これらのこととは、あらかじめ予想できることではあったが丘陵先端部が全面利用されておりあらためて遺構密度の高いのにおどろかされた。

ここでは、中野遺跡出土の遺構・遺物をとくに国鉄片町線内で近隣の忍ヶ丘駅前遺跡・南山下遺跡・奈良井遺跡・塚脇遺跡等と比較しながら遺跡全般についてのべてみたい。各遺跡は生駒山系から脈生する丘陵上に立地する共通点を有している。中でも奈良井遺跡は本遺跡に最も近似した地形を持ち、丘陵先端部を利用した遺跡の類似性を多くみいだすことができる。また、中野遺跡全般の出土遺物からみて、奈良井遺跡が5世紀中頃に始まり、末頃には本遺跡と共存すると考えられる。本遺跡の終りを6世紀初頭と考え、同時に忍ヶ丘駅前遺跡と南山下遺跡の両遺跡が共に始まり、6世紀後半から7世紀初頭頃まで続いたと考えられる。

年代順にみると、市内の各遺跡にあっては今日旧石器時代に属すると考えられる讚良川遺跡・南山下遺跡から比較的まとまった地点より出土しており、同時に縄文時代前期～晩期の土器が多数出土している。中でも半載された小さな竹状の施文具によって割突した羽島下層Ⅱ式土器、連続的にC字形の爪形文を密に施した北白川下層Ⅱa式土器、北白川下層Ⅱb式土器が南山下遺跡から出土しており、讚良川遺跡からは後期初頭の中津式に始まり元住吉山式、北白川上層、宮滝式とつながり、晩期滋賀里、櫛原、船橋に至る。

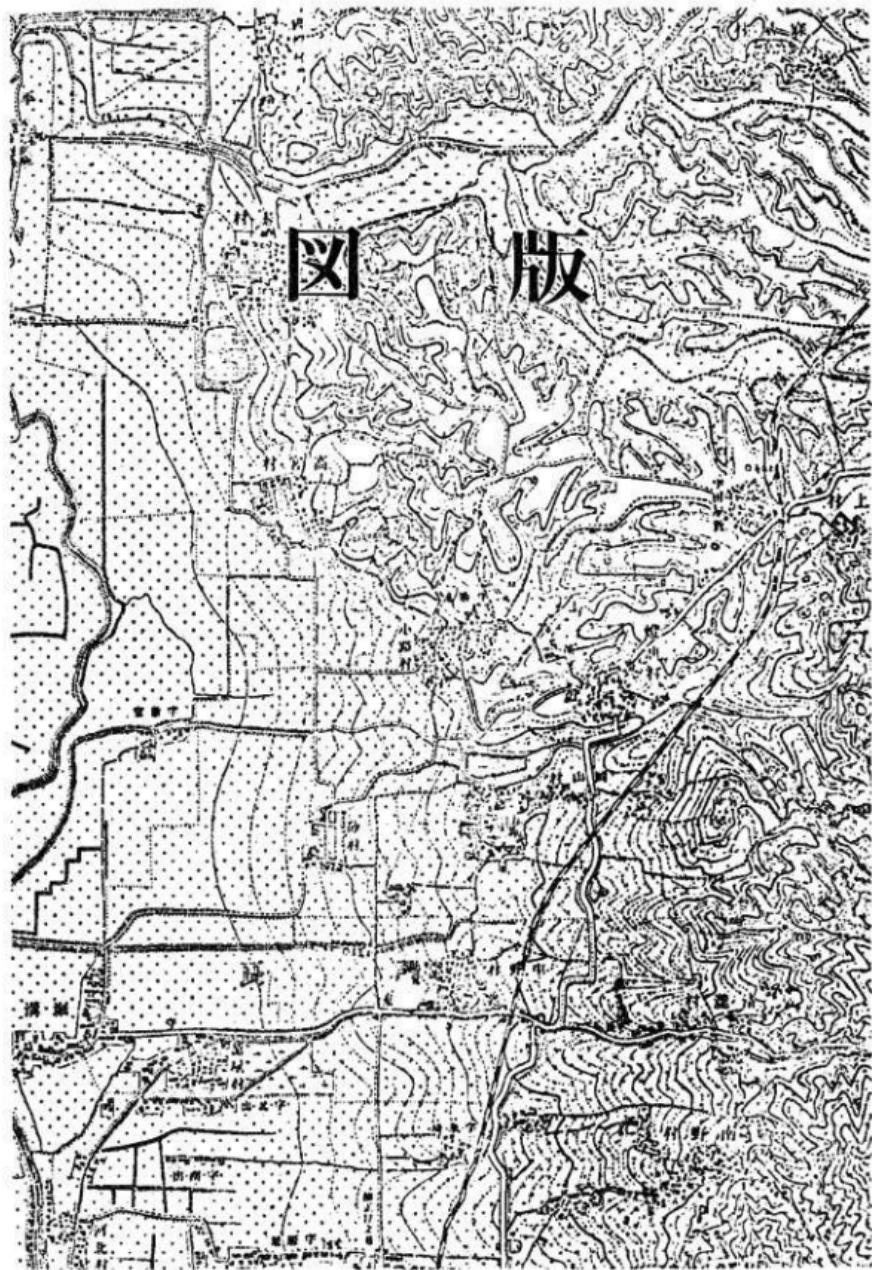
弥生時代に属すると考えられる遺構は発見されておらない、しかし、市水道局建設工事に際して弥生式土器片1点だけが採集されている。

古墳時代は、各遺跡から何らかの遺構・遺物の検出がある。今回の発掘調査範囲内では6世紀前半に比定できる須恵器・土師器が伴出している。明らかに古墳時代に比定できる遺構は検出されなかったが、遺物には硬玉製勾玉・白玉・土師器・須恵器などが包含層から出土

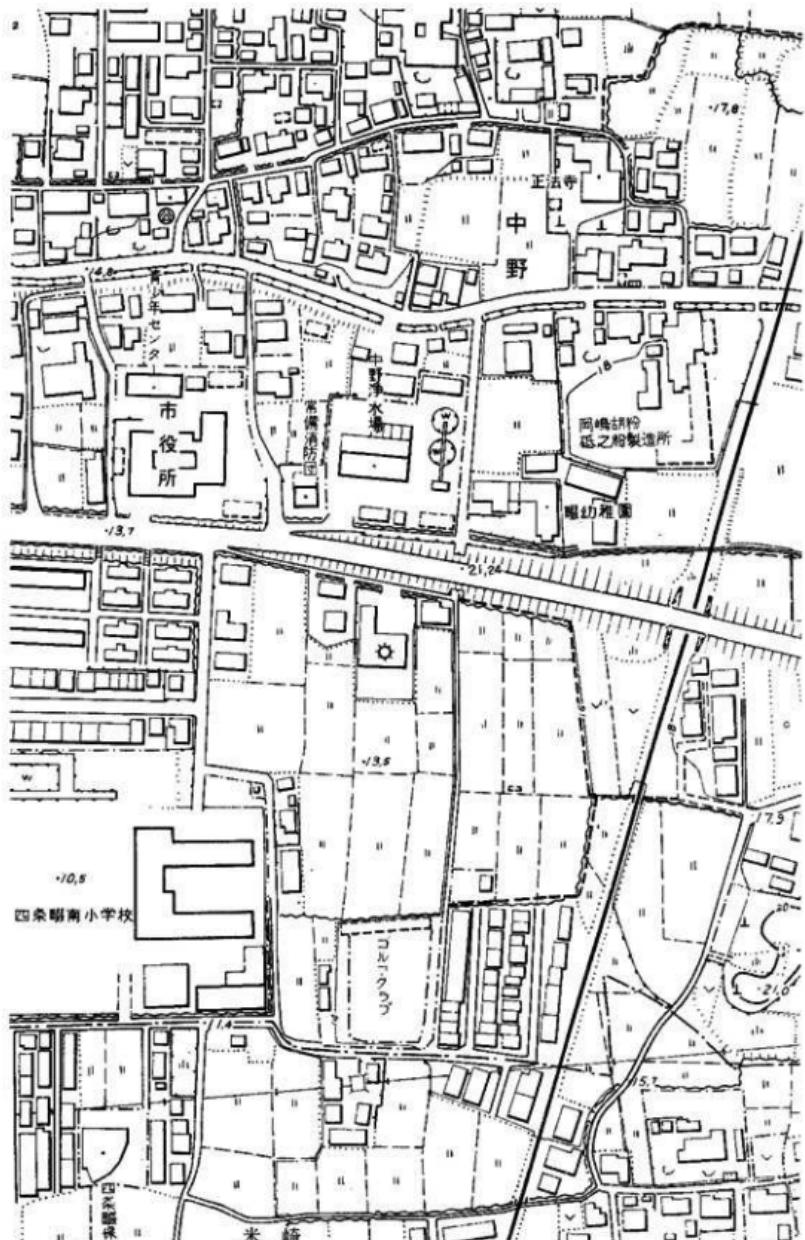
した。しかしこれらの遺物は本遺跡の中心的時代をなす平安時代と鎌倉時代～室町時代の遺構が刻まれる時削平をうけたのではなかろうか、したがって本遺跡は単純な一時期の遺跡ではなく古墳時代・歴史時代と時間的巾をもつものといえる。古墳時代は中期に、平安時代、鎌倉時代、室町時代にそれぞれ生活の跡を残している。中でも最も多い遺物は平安時代～鎌倉時代のもので、これを見るかぎり発掘調査範囲内ではこの遺跡の時期が中心になっていたようと思われる。

圖

版



図版一 位置図





図版 3 挖立柱建物跡根板出土状況

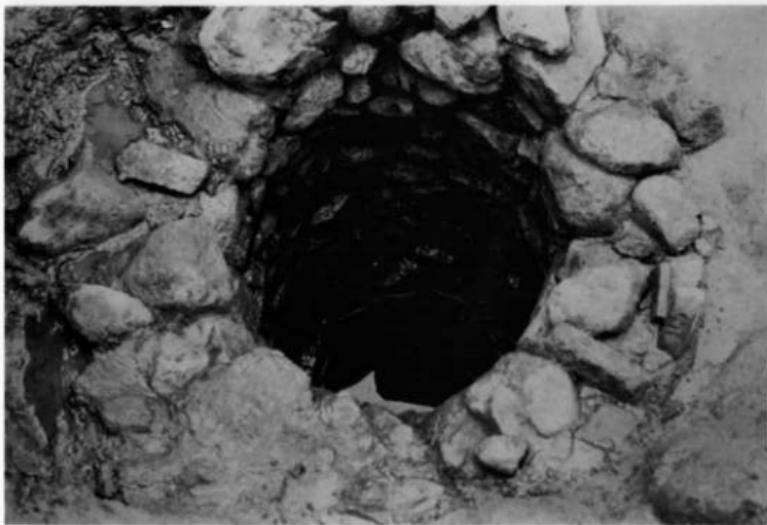


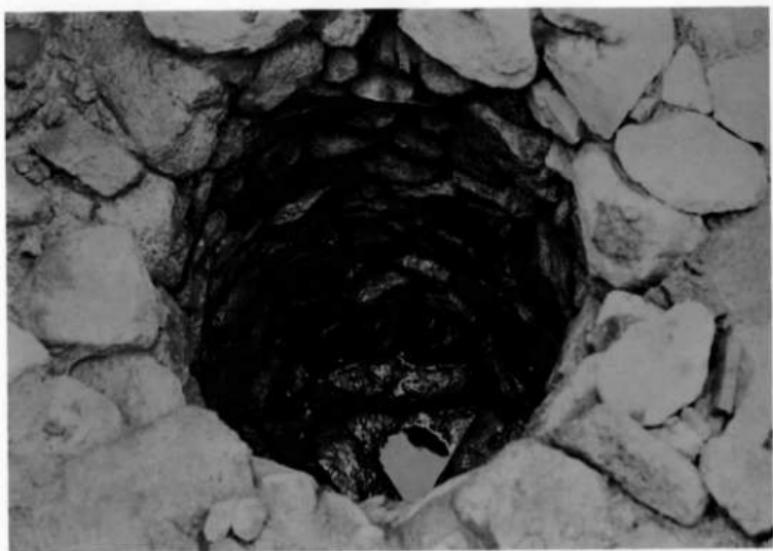
図版4 据立柱建物跡柱根及び板出土状況

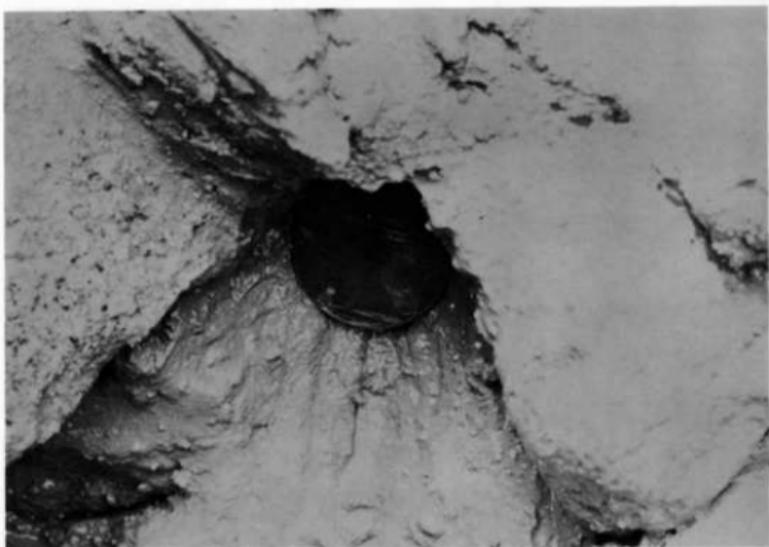












圖版 10 硬玉製勾玉出土狀況



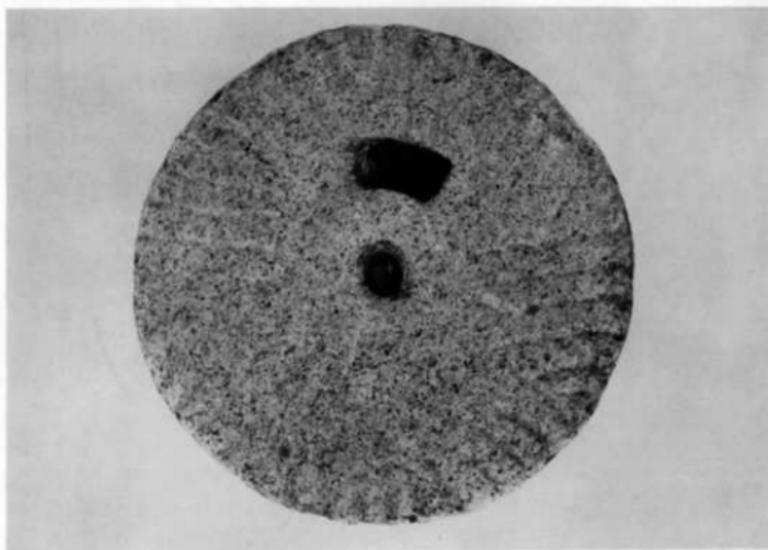
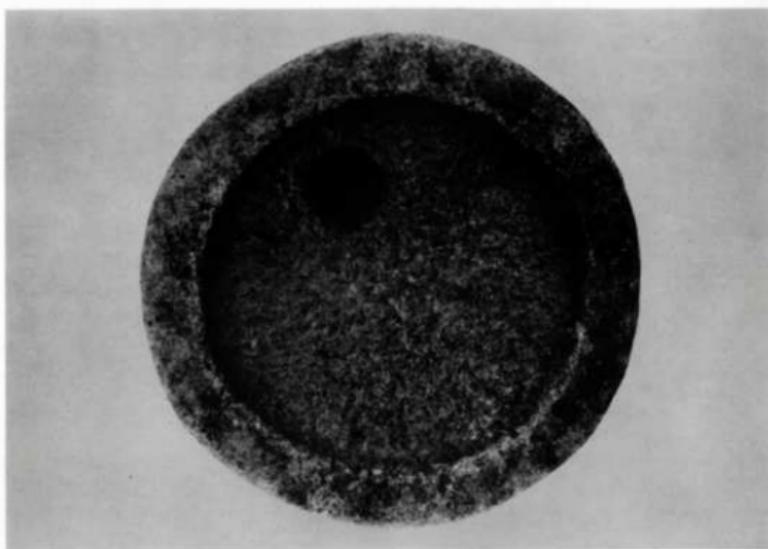
圖版 11 滑石製雙孔圓板出土狀況

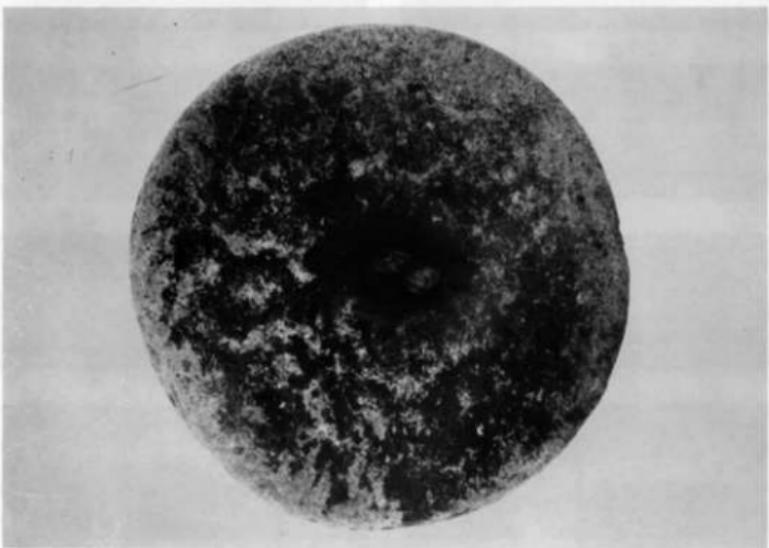


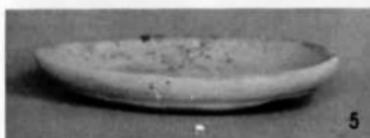
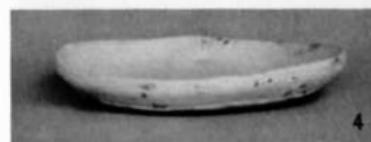
図版11 II区Q-132井戸内出土石臼

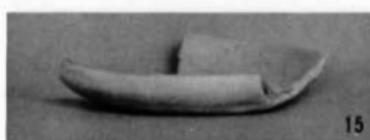


図版12
II区Q-1-132井戸内出土上田









15



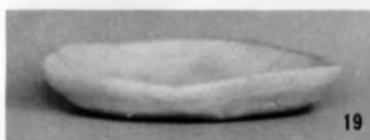
16



17



18



19



20



21



22



23



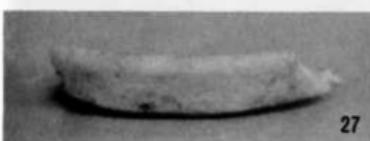
24



25



26

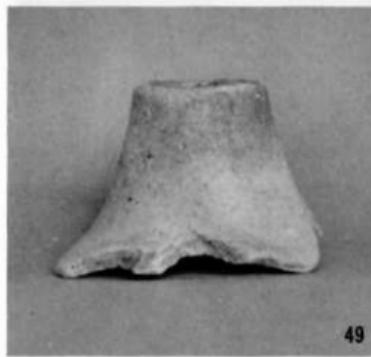
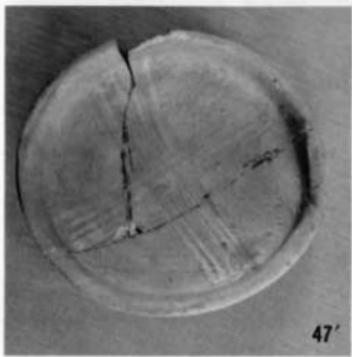
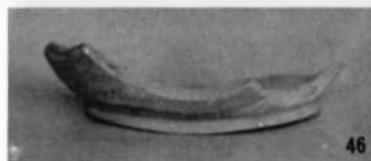


27



28



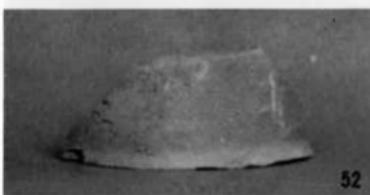




50



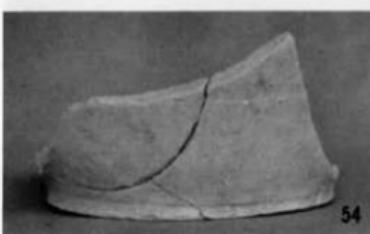
51



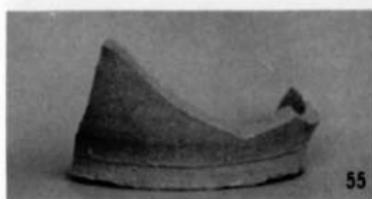
52



53



54



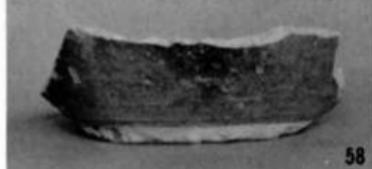
55



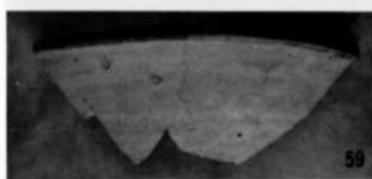
56



57



58



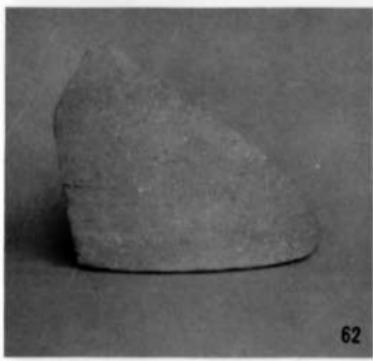
59



60



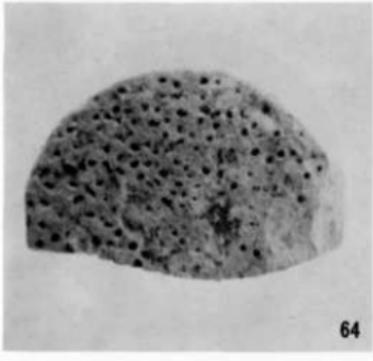
61



62



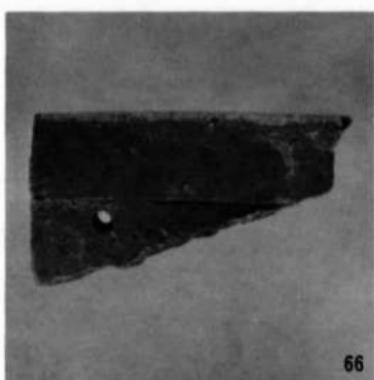
63



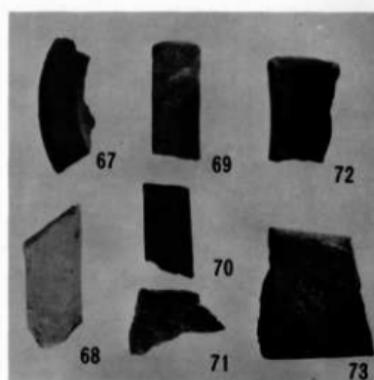
64



65



66



67

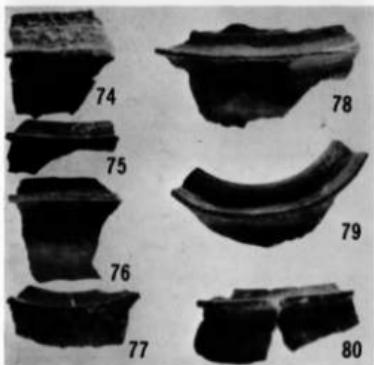
69

72

68

71

73



74

78

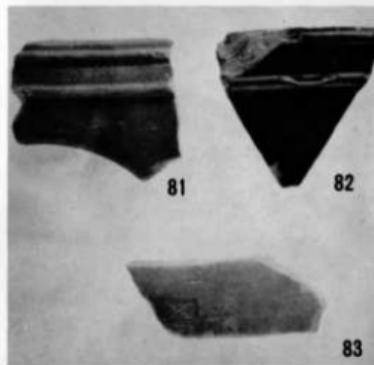
75

79

76

80

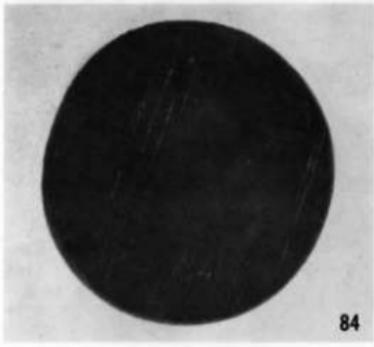
77



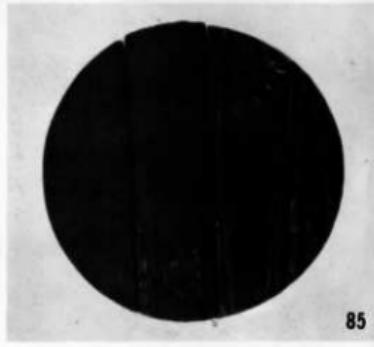
81

82

83



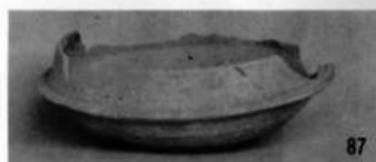
84



85



86



87



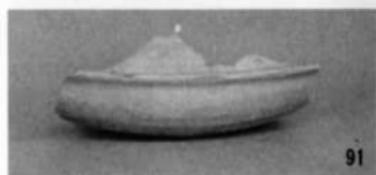
88



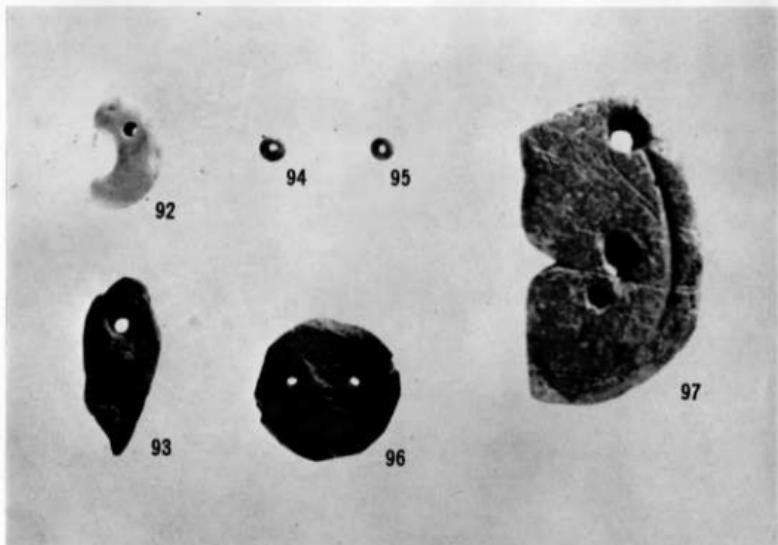
89



90



91



92

94

95

93

96

97

中野遺跡発掘調査概要・I

昭和53年5月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会

四條畷市中野本町1-1

印刷 田中印刷 K.K.